



ケニアのティヴァに造成されたメリアの採種園

TREE BREEDING for REDD+

林木育種センター海外協力部長 清水 邦夫

アフリカのケニア国においては、2012年7月よりJICA（国際協力機構）による「気候変動への適応のための乾燥地耐性育種プロジェクト」が実施されています。具体的には、今後、ケニアにおいては、気候変動の進行に伴い、干ばつの頻度の増加等などが懸念される中であって、国土の8割を占める半乾燥地・乾燥地において、郷土樹種である *Melia volkensii* (センダン属) と *Acacia tortilis* (アカシア属) を対象に良好な成長を示す系統を選抜し、種苗生産業者、森林所有者、アグロフォレストリーを営む地域住民等に対する優良な種苗の供給システムを構築して、植林に活かしてもらうことを目的としています。

これまで本誌や林木育種成果発表会等でご紹介しておりますが、当森林総合研究所林木育種センターでは、育種や増殖に関する技術の海外移転を担当しており、ケニアから研修生を受け入れるとともに、研究者や技術者を短期専門家として現地に派遣しております。また、乾燥地耐性の課題については、九州大学と連携して取り組んでおります。

森林問題は、長い間、国際的な関心を呼んできました。それは主に開発途上国の熱帯林の減少問題であり、人口増加や経済発展（あるいは貧困）を背景とした農用地への転用、過剰伐採が原因となっていますが、その解決に向けた方策については、現在、気候変動との関連でREDD+（レッド・プラス）という枠組みの中で議論が行われています。（REDD+の詳細については、当森林総合研究所REDD研究開発センターのホームページをご覧ください。）

開発途上国の森林面積や蓄積の減少を抑える、あるいは増加に転向させるための具体策としては、地域住民にとって経済的に魅力のあるような樹種や優れた品種を開発し、植林が自発的に進むようにすることが挙げられます。ケニアで取り組んでいる林木育種プロジェクトはそのようなニーズに応え得るものとなっていますし、成長の優れた系統も見つかりつつあります。プロジェクトの成果はケニアのみならず、周辺国にも普及される予定ですので、今後、REDD+の具体策の一つとして注目を集めるのではないかと今から期待しているところです。

【紙面紹介】

平成25年度に開発した新品種	2	西表熱帯林育種技術園への研修生受け入れ	7
漢方生薬原料樹木カギガズラの組織培養	4	林木育種成果発表会、林木育種開発品種説明会を開催	8
環境条件からみた林木遺伝資源保存林の評価	5	八重山諸島の植物紹介「イリオモテラン」	8
林木遺伝資源は様々な分野に活用されています	6		

